



故郷への思いを描き続けた画家

岩橋 英遠

【指導事例 1】

1 主 題 「先人の努力を知り、郷土を愛する心をもつ」〔国や郷土を愛する態度〕

2 ねらい

ふるさとへの思いと誇りをもちながら努力し続けた先人の生き方を知り、郷土を愛する態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、故郷への思いを描き続けた岩橋英遠の功績に触れることを通して、ふるさとのよさや大切さに気付き、郷土を愛する態度を育てることをねらいとしています。
前半では、幼少期に育った町で好きな絵を描きながら友情を育んでいた頃の様子が示されています。
後半では、上京して、苦しい生活を続けながらも、故郷を心のよりどころとしながら、日本画家として成長していく姿が描かれるとともに、晩年は、故郷の北海道の風景を題材にした多くの作品を創作する岩橋英遠のふるさとへの思いや行動について触れています。
指導に当たっては、生まれ育った地域の自然や人々など、郷土を愛した主人公への自我関与を通して、ふるさとの自然や伝統、文化と自分との関わりについて考えを深めていくことが重要です。

4 展開例－①「岩橋英遠のふるさとへの思いや行動について話し合う活動を通して、ふるさとのよさや大切さについて考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちのふるさとについて話し合う。 ○ みなさんのふるすとは、どこですか。また、ふるさとの自然や文化、行事などで自慢できることは何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りはずっと昔から続いているみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「故郷への思いを描き続けた画家」を読み、話し合う。 ○ 岩橋英遠が、「江部乙は小さな町なんかではありません。」と少年に穏やかに語ったとき、心の中にはどんな思いがあったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生まれ育ったふるさとをいつも心の支えにしてきた。 ・母校の中学生に自分のふるさとのよさ（魅力・素晴らしさ）を少しでも伝えたい。 ○ 少年が岩橋英遠をまっすぐ見つめ、姿勢を正し、深々と頭を下げたのは、なぜだと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のふるさとを小さなふるさとと言ったことが恥ずかしくなったから。 ・ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつ気持ちに中学生が共感したから。 ◎ 岩橋英遠にとって、ふるすとはどんな場所だったと思いますか。また、それはなぜですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・心のよりどころ。自分のことを覚えていてくれる人が住んでいるところだから。 ・自分の心の支えになっている場所。家族や友達と過ごした思い出がたくさんあるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画家「岩橋英遠」の作品と出身地「滝川市江部乙町」を紹介する。 ・登場人物が上京してからも生まれ故郷と故郷の人々を大切にしていることを考えられるようにする。 ・登場人物のふるさとへの思いを多面的・多角的に話し合うことを通して、価値理解・他者理解を深めることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分とふるさとの関わりについて考える。 ○ あなたにとって、ふるすとはどんな場所ですか。また、あなたはふるさとのためにどんなことをしようと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ふるすとは自分をずっと支えてくれる場所。地域の行事や人々の関わりを大切にしていきたい。 ・家族や友達がいる場所。地域がもっと大きく発展して欲しいから、地域のよさをアピールしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や生き方を振り返ることを通して、自己理解を深められるようにする。 ■ ふるさとのよさや大切さについて、自分との関わりで考えている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の説話を聞く ※教師のふるさとへの思い、自分の住む町や北海道に思いを寄せ、郷土の伝統や文化を大切にしている人たちの取組についての話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町や北海道の自然や伝統、文化を大切にしようとする態度が育まれるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「先人の努力を知り、郷土を愛する心をもつ」〔国や郷土を愛する態度〕

2 ねらい

ふるさとへの思いと誇りをもちながら努力し続けた先人の生き方を知り、郷土を愛する態度を育てる。

3 展開例—②「教材『故郷への思いを描き続けた画家』を読み、話し合い活動を通して、自分たちのふるさとの自然や伝統、文化を大切にしようとする態度を育み、ふるさとの発展のために自分たちができることを考える展開」

4 主な学習活動

(1) みなさんのふるさとのよさについて、遠くの町に暮らしている人にどのようなことを紹介したいですか。

- ・私の町は、山や川、菜の花畑など、美しい自然がたくさんあり、他の町からもたくさんの人が訪れている。
- ・私の町は、地域のお祭りや子ども会活動が盛んだ。
- ・新しい住宅や大型商業施設ができて、町に活気がある。

(2) 岩橋英遠が、故郷の子どもたちとの交流や植樹活動に取り組んだのは、どんな思いがあったからだと思いますか。

- ・心のよりどころだったふるさとの人たちに、恩返しをしたい。
- ・心の支えになっているふるさとの風景の美しさを、多くの人に知ってもらい、ふるさとの誇りにしてもらいたい。
- ・ふるさとの魅力を、故郷の子どもたちに気付いてもらいたい。

(3) あなたのふるさとのよさや、「こうしたらよい」と思うことは何ですか。また、あなたは、ふるさとのためにどんなことをしようと思いますか。

- ・地域のつながりが薄いので、もっとみんなが協力できればいいと思う。私は、地域の行事に積極的に参加したり、地域の人に積極的に挨拶したりしようと思う。
- ・美しい田園の風景や桜の街路樹をこれからもずっと残していきたい。私は、自然や街並みを絵に描くことを通して、たくさんの人に町の美しさに気付いてもらおうと思う。
- ・駅前の商店街がもっと活気がでてくれればいいと思う。私は、商店街にたくさんの人が集まるようなイベントを見聞会や市役所と一緒に考えていこうと思う。

□ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 音楽科

歌唱の学習において、「ふるさと」や「おぼろ月夜」などの共通教材に含まれている伝統や文化、自然や四季の美しさや夢や希望をもって生きることの大切さについて触れるとともに、本教材の岩橋英遠のふるさとへの思いを取り扱うことを通して、豊かな情操を培うことができるようにする。

■ 図画工作科

鑑賞の学習において、岩橋英遠の作品を鑑賞するとともに、本教材を読むことを通して、感性や美意識、ふるさとへの思いを感じ取らせ、芸術や自然の美しさに気付きながら豊かな感性や情操を培うことができるようにする。

■ 総合的な学習の時間

地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題を追究する学習において、本教材のふるさとを思う岩橋英遠の生き方に触れることを通して、自己の生き方を考えることにつなげることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、授業の様子を紹介することを通して、保護者や地域の人々が子ども達のふるさとへの愛着を育むことに進んで寄与することにつなげることができるようにする。